

尿酸値は糖尿病発症に先立って上昇し、糖尿病の経過とともに下降する

これまでの観察研究により、尿酸値の上昇は糖尿病の危険因子であることが示されている一方で、その逆の関係であるとする報告もある。そこで本研究では、糖尿病の発症と尿酸値の関係、そして糖尿病の診断後の尿酸値の変化について検討した。

研究開始時（1987年-1989年）に糖尿病と診断されていない1万1,134人を対象とし、中央値9年間追跡した結果、1,294人が糖尿病を発症した。尿酸値は危険因子の補正後においても糖尿病と相関がみられた（ハザード比1.18）。糖尿病を発症した被験者では、糖尿病の経過5年ごとに尿酸値が0.10mg/dL低下した。

以上のことから、尿酸値は糖尿病の発症に先立って上昇し、糖尿病の経過とともに下降することが示された。今後、尿酸が心臓血管病の危険因子であることを研究する際には、糖尿病の進行時期などを考慮すべきであろう。

出典：American Journal of Epidemiology. 2014; 179(6): 684-691